

INFORMATION

先のことですがお知らせします。

7月公開同朋会

7月13日(土)

午後1時から

法話

エレクトーン演奏

茶話会

今年もエレクトーン奏者 Sono さんが
やってきます。本堂いっぱいご壮大な
音楽が広がります。お楽しみに！

観劇「前進座」特別公演

「花こぶし」親鸞聖人と恵信尼さま

7月29日(火)13:30開場 14:00開演

A席6,000円 B席4,500円

場所 東京エレクトンホール宮城

観劇希望の方は5月11日までにご連絡く
ださい。団体で予約いたします。



四月同朋会より

新年度を迎え、同朋会も少し新しい形式になりました。

住職は「正信偈」、前任住職は「歎異抄」をもとに法話をします。ただ、今まで通りお彼岸やお盆など季節の仏事に合わせたお話しも続けていく予定です。ご興味ある方は、どうぞお越しください。

住職法話「正信偈はみんなのうた」

『正信偈』は親鸞聖人の書かれた偈文で、私たち真宗門徒にとって一番身近なお勤めの文です。もともと親鸞聖人の著書『教行信証(顕浄土真実教行証文類)』の一節で大きく二つの段に分かれています。最初の二行は南無阿弥陀仏に通じ、親鸞聖人の信仰告白とも言える部分です。その後「依経分(えきょうぶん)」「大無量寿経」の要となる教えについて書かれている部分、と「依釈分(えしゃくぶん)」「浄土の教えを伝えた七人の高僧が解釈したものを紹介してそれを讃える部分から成っています。

前任住職法話「歎異抄 作者・唯円の嘆き」

『歎異抄』は異なることを嘆く抄と名付けられ、作者は親鸞聖人から直接教えをいただいた常陸国(茨城県)唯円大徳だと言われています。唯円は自分の解釈が正しいとして、異議を唱える人を批判するためにこの文章を書いたのではなく、同じ親鸞聖人の教えを聞いた仲間たちがズレてきてしまっていることを嘆くとともに、そして教えを正しく伝えられなかったことに責任を感じ、深く痛みを感じて自責の念でこの抄を書いたのではないかと考えられています。

五月同朋会(第二土曜日)

五月十一日

時 午後一時から三時半

内容 勤行・法話・茶話会

持ち物 念珠、勤行本 歎異抄

(あればお持ちください)

お茶代 500円

ぼうもりのひとりごと

4月にはヨガインストラクターの方のインド旅行報告会やペットと高齢者の方の関わりについての勉強会がありました。お寺を依処にいろんな方が出あい、仏の教えに触れていただくことができ、有り難く感じています。徳泉寺では場所貸しはしていませんが、一緒にできることであれば積極的に関わりを持っています。